



横浜市立一本松小学校

10月号

# 学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和5年9月29日

## 「学級も One Team (ワンチーム) に」

校長 高桑 透

厳しかった暑さが少しずつ和らいできました。数か月稼働していた我が家のエアコンも、やっとその役割を終え、窓から入ってくる秋風と虫の音に心を癒されています。学校生活でも、ようやく休み時間に外で元気の遊ぶ子どもたちの声が響くようになってきました。一本松オリンピック（運動会）に向けた練習も始まり、学校全体に活気も出てきました。

今年は様々なスポーツでの国際大会が行われています。3月のWBC（野球）では、大谷選手の活躍などにより、世界一になりました。7月には女子サッカーワールドカップでベスト8、8月末から行われた男子バスケットボールワールドカップでは、数年ぶりの勝利や、パリオリンピックの出場権獲得などうれしい結果となりました。また、現在バレーボールとラグビーのワールドカップが行われています。各種目の日本代表の活躍に心躍らされる日々が続いています。

私は以前からラグビーというスポーツがとても好きです。鍛え上げた肉体と肉体を激しくぶつけあいながら楕円形のボールを奪い合い、ゴールを目指します。タックルでボールを奪ったり、スクラムで相手を押し込んだりする力強さと、きれいにパスをつなぎながら、相手陣地にボールを運んでいく美しさに、いつも感動させられています。

試合終了を「ゲームセット」と言わずに「ノーサイド」と言ったり、「アフターマッチファンクション（試合が終わったら敵味方関係なく、全員で同じ酒を飲んで、お互いをたたえ合う場）があることも、ラグビーも魅力の一つだと思います。

前回のワールドカップでの、ラグビー日本代表チームのスローガン「One Team (ワンチーム)」は、流行語となりました。他のスポーツの代表チームとは違い、ラグビーの日本代表チームには、外国出身の選手がたくさんいます。日本のリーグに所属している選手は、日本代表としてワールドカップを戦います。外国出身の選手が、日本代表として誇りをもって戦うために、「ワンチーム」というスローガンの元、気持ちを一つにして戦い、ベスト8という好成績を残しました。

「ワンチーム」になるために、お互いのことを尊重し合うという姿勢はとても大切です。学校で考えれば、学級は「ワンチーム」でなければいけません。クラスにいる子どもたちも、それぞれ考え方も違えば感じ方も違います。ひとり一人がみな違うからこそ、お互いのことを理解し、受け入れなければならないのです。クラスの友だちは、一緒に成長していくための大切な仲間です。

例えば、ラグビー選手は、自分がタックルにいったときに、そのあと必ず続けてタックルしてくれる仲間がいるから思い切って当たることができるそうです。ボールを持って走るときも、後ろから仲間が走ってくることを信じて相手に向かっていけるそうです。この仲間を信じる心が、安心してできる心がチームを強くしているのです。これは学級でも同じです。自分ががんばろうと思っているときに一緒にがんばってくれたり、自分が失敗したときにも助けてくれたり、声をかけてくれたりする仲間がいることで、チャレンジできるのだと思います。共に成長していく仲間としてお互いに尊重し合える学級そして学校を目指していきます。